

2022年 NO  
6月1日号 1号

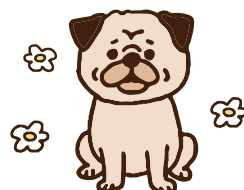
じんけんにやんだふる



じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

# OYAOYA 通信

学びのホームグラウンド じんけん楽習



じんけんわんだふる

6月1日のじんけん楽習塾は「障害のある子の発達と放課後の性」がテーマです。講師は坂爪真吾さん（一般社団法人ホワイトハンズ）です。今回は会場で Zoom 視聴しながら、一緒に学習します。

## オンライン参加のみなさんへ

- 研修参加の際は、必ず映像はオンの状態で願います。(休憩中はオフでも大丈夫です。)
- グループワークもあります。
- 申し込みの時の名前で参加ください。
- 研修参加の際は、こちらが指示するまでマイクはミュートでの参加をお願いします。
- ZOOMに入室できない等でお困りの時は 八尾市人権協会 072-924-9853 にお電話ください。
- ZOOMに入室できた後はなるべく、ホスト(事務局)あてチャット機能をお使いください。



## みんなのふりかえり 1回目 5/18

いっしょに「水平社100年宣言」をつくろう！  
森実さん（じんけん楽習塾）



今年度のじんけん楽習塾が5月18日からはじまりました。計6回の学びを通して、人権を他人ごとから自分ごとへ考えていきたいと思っています。

●水平社宣言を100年前のできごとにせず、今の課題にひきよせ考えることで、水平社をたちあげた人たちの思いを、大切に、よりよい、すべての人が幸せな社会の第一歩にしたいと思いました。ありがとうございました。

★OYAOYA 川柳

だれひとり とりのこされない 水平な世

●みなさんがお話しされることを聞いて、自身の経験を「あれも差別か」「これも差別やったんか」とフラッシュのように思い返すことができました。そして「悔しい、

までたどりつけずに「自分が悪いんか」と思ってる人もいる」と言語化してくださった方がいらしたことに感銘を受けました。

●悔しかったことをあらためて考えて、今だからこそ気付いた自分の気持ちがあり大きな気づきでした。

自分ごととして水平社100年宣言を読めて(ほんの少し)(まだまだ勉強不足ですが)良かったです。

★OYAOYA 川柳

あらためて くやしいきもち バネにする

●水平社100年という記念の年に、たくさんの学びを吸収したいと思います。言われていた様に、今年しなければ、いつするのか、機会を多く持つこと、「100周年」というインパクトもあり記憶に残りやすい自分自身+子どもたちに学び返していきたいと思いました。

自分自身に戻っていくことも大変ですが、とても意味のあることだと改めて感じました。自分のことを安心して話せる空間が素敵だと思います。

●私の水平社宣言と聞いて、最初はかなり壮大な話だなあと感じました。しかし、自分の体験を落としこみ、グループで議論していくなかで、水平社宣言がすぐ身近に感じられました。嫌なこと、差別的なことを受けたとき、乗り越えるためには、いっしょに怒ってくれる、気持ちをわかちあえる仲間が存在がとても大きいことにも気づかされました。

●“エタであることを誇りうる時が”を“自分たちが差別のなかを生き抜いた人々であることを誇る時が”と現代語訳した小学生のセンスが素敵でした。

最後にOさんが言った“「悔しい」と思えるところに辿り着けてないと…”というのは、とても大事だなと思いました。私もいろいろ思い出したけれど、子どもの頃は「悔しい」とは思えてなかったなと思います。

●参加するたびに気づきをあたえてくれる「じんけん楽習塾」今回も、なにげなく過ごす日常の“あたりまえ”の中にある差別。少しずつ私の中で正していければと感じた。

●自分の過去や現状にしても、差別されたこと、悔しかったこと、考えるのは辛い作業だったが、考えることで整理されることもあり、チャレンジしてみてもよかったです。

●わたしの悔しかった体験をふりかえる時に、なにか悔しかった感覚として記憶はあるけれど、具体的にすぐに思い出せない。思い出したくない?!みたいな気持ちがあわさって感情がこみあげてきました。

奥底においてある気持ちに向き合った気がします。

今日は、「自分たちが差別のなかを生き抜いてきた人々」という言葉と、グループワークの時にグループ内で出された「自分自身の解放」という言葉が響きました。

これまで、そしてこれからを考えさせられる時間になりました。ありがとうございました

●わたしの水平社づくりは、自分の人生（これまでの引っかけ）を振り返りことばにしていくことなんだなあとあらためて思いました。

あと、会場からの意見・感想で、「くやしい」という思いもあるけど、それだけでなく、いろいろな複雑な感情があったり、「くやしい」までいかない感情がある…ということばが色々考える機会になりました。

また、被差別体験や悔しかったこと、苦しかったことなどを言葉にするのは安心安全な場（関係）でなければなかなかできないことだと思います。でも、そういったことが話せる場・なかまがちょっとずつでも増えると、増やしていきたいなとも思いました。

ありがとうございました。

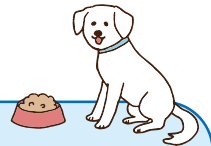
●自分の経験と水平社宣言を照らし合わせるのは面白いと思ったが、なかなかしんどい部分を出すというのはおつかしかった。宣言を読み解くよりも、自分の内なる水平社宣言を探していくのは大切だと感じた。宣言 100 年なので、1年間、改めてこのことを思い続けようと思った。

### 解放同盟は水平社宣言のジェンダー問題についてのどのような議論をしているかの質問に対する回答

解放同盟大阪府連女性部に問い合わせました。

大阪府連女性部としては、年に一度の大会での朗読については原文で朗読をしているが、資料等にジェンダー問題等の部分については注釈を入れているとのこと。当時の時代背景と今の基準を照らし合わせるのはどうだろうなど、いろいろと議論が出ていることも事実だが、今の時点では原文を大切に、注釈をつけるというところまで落ち着いている。他府県では「兄弟姉妹」という風に変えているところもあり、解放同盟全体としてはさまざま意見があり、整理はできていないのが現状。

大阪府連女性部としても、解放同盟にはジェンダー問題を提起していて、部落女性については部落差別と女性差別が複合して現れる複合差別としてこの間、部落女性についての調査・研究を行ったり、今年、解放同盟大阪府連でもジェンダー平等指針を提起するなど、重要な課題としてジェンダー問題に取り組んでいる。



#### 連絡

毎回ふりかえり用紙をくばります。オンラインの場合はファイルを送ります。後でメールファックスでもいいので送ってください。お願いします。通信に反映させたいと思います。（公開だめなものはオープンにしません）

写真を撮影しますが、OYAOYA通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用する場合があります。なるべく個人が特定しにくいものをご考えていますが、困るという方は事務局に申しつけてください。



### 私の水平社宣言

男尊女卑な父親の居る家庭に育ち、幼い頃からこのことに「女のケに」という言葉を聞かされて来ました。

女のケに意見するな。女は感情的に、ヒステリックに、良く考えもせずキー高い声で叫ぶ。うるさい女はねぐらで当然、意見を言う方が悪い。女は男の言う通りにしとけばいい。

女のケに... 幼い時からそんなことが「当たり前」だったので自分が女に生まれたことがイヤだった。

しかし女性にも人権があると知って女性に生まれたことに誇りを持てるようになった。

どんな性であろうと皆 平等であるべき。皆平等だと皆が平等に学べます



人の世に熱あれ、人間に光あれ